

Ⅱ 令和6年度学校関係者評価委員会からの提言と学校の改善計画

◆1【人と人とのつながりについて】

提言	<p>アンケートの結果から、児童と児童を取り巻く人々との関係（つながり）が希薄になってきているのではないかと危惧される。また、ICTが普及し、児童が容易に使用できるようになったことで、コミュニケーションの中心がSNSになりつつあることも、その一因ではないかと考える。そこで、学校には「関わり合った」からこそ得られるよさを実感させる取組を行ってもらうように要請する。</p> <p>また、きまりを見直す際、児童と共にルール作りをしていくことが、意識の向上につながると考えられる。そこで、児童の自律心の育成につながるこの方法を取り入れることも今後、考えてほしい。</p>
取組	<p>○「せたがや探究的な学び」を実践することを通して、友達と協働して学ぶ楽しさや良さを感じられるようにする。</p> <p>○学級会や行事などの特別活動の取り組みを通して、自分たちの思いを実現するために話し合い、決定して実行する経験を積むようにする。その中で、自己肯定感や自己有用感を高めるようにしていく。</p> <p>○「砧南小のきまり」を令和7年度に向けて見直した。その内容について、保護者と児童に改めて周知し、理解をもとめる。</p>

◆2【ICT 機器の活用について】

提言	<p>アンケートの結果から、児童と保護者の意識の違いがあることが分かった。学校では、「セーフティ教室」や「ネットリテラシー醸成講座」などを継続して行い、保護者にも声掛けして家族で話題にする機会を作してほしい。また、ICT 機器のよくない面を伝えるだけでなく、新しい技術に触れる機会を増やし、それについて家族で話し合うことができるようになることを期待する。</p>
取組	<p>○児童対象のネットリテラシー醸成講座などに保護者の参加を促したり、保護者向けの講習会に参加しやすい保護者会の日に実施したりして、保護者が児童と話題にできる機会を作る。</p> <p>○児童対象のSNS教室などを各学期で実施し、繰り返しSNSやインターネットの使い方について、学級または学年で話し合うようにする。</p> <p>○保護者会などで、教員とまたは、保護者同士で子どもたちの ICT 機器の活用について話題にする。</p>

◆3【学校からの情報提供について】

提言	<p>情報提供については、肯定的評価が昨年度より増加しており、評価は改善傾向にある。すぐーるでの配信、学校ホームページの毎日更新の成果であると考え。一方で、学び舎の取組や学校の重点目標、自然災害時の対応についての情報提供は、さらなる改善を求める。</p>
取組	<p>○必要な時期に必要な情報が提供できるように、学校ホームページやすぐーる配信の内容について、吟味していく。</p> <p>○児童の活動だけでなく、教職員の研修や活動などについても紹介し、本校の教育活動により理解を求める。</p>